

ヨーロッパアルプス

メンバー 加藤隆一

田村千年 (コーディネーター)

フィリップ(Phillip) (現地山岳ガイド)

ヨハン(Johann) (マッターホルン現地山岳ガイド)

期間 2016年8月5日～23日

8月5日(金)～6日(土) 移動日

p t 加藤、田村

成田空港～バンコク空港～チューリッヒ空港～ツェルマット(Zermatt)

ツェルマットにてガイドのフィリップと会い、明日以降の予定について打ち合わせを行う。フィリップから、「マッターホルンには(歳なので)行けない」、「アイガーミッテルレギは状態が悪いので行けない」との意見が出て計画が変更となった。従ってマッターホルンは別ガイドを雇うこととなり、アイガーミッテルレギはメンヒ登山のみとなった。出鼻をくじかれた格好だ。

ブライトホルン(Breithorn)4164m

8月7日(日)晴

p t 加藤、フィリップ

ツェルマット(Zermatt) 9:50 クラインマッターホルン=マッターホルン・グレッシャー・パラダイス(Matterhorn Glacier Paradise) 10:45 ブライトホルン 12:35 クラインマッターホルン 13:30 ツェルマット 14:30

クラインマッターホルンまでロープウェイで一気に上がる。一面の銀世界だ。しばらく緩やかな雪面を行く。急な登りになる前にアイゼン付け、両手にストックで踏み跡のない急な雪面を登る。「トレーニングだ」とフィリップに励まされる。多数のパーティが登っている。天気が良く頂上からの眺めが素晴らしい。下りも踏み跡のない急な雪面を下る。



クラインマッターホルンからブライトホルンを望む

ブライトホルン頂上付近



ガイドのフィリップ



ブライトホルン頂上

オーバーロートホルン (Oberrothorn) 3414m

8月8日 (月) 晴

p t 加藤、田村

ツェルマット 9 : 40 スネガ (Sunnegga) 10 : 00 ロートホルン (Rothorn) 10 : 30
オーバーロートホルン 12 : 00 トゥフテルン (Tufteren) 15 : 30 ツェルマット
17 : 15

ロープウェイで、ツェルマット～スネガ～ロートホルンまで一気に登る。ここから砂利道を登る。ところどころ草花が咲いている。エーデルワイスを見つけ思わず写真を撮る。ジグザグ道を登り頂上に到着。頂上からの眺めが素晴らしい。しばらく景色を楽しむ。

下りはトゥフテルンへ向かう。様々な草花と出会い、エーデルワイスの群落のある丘の上からツェルマットとマッターホルンを望むのは最高だ。途中のレストランにてビールとハム・チーズを頂きほろ酔い気分帰宅した。



エーデルワイス



リンドウ科のゲンティアナ・ババリカ？



左からテーシュホルン (täschhorn) 4491m
 アルプフーベル (Alphubel) 4206m
 アラリンホルン (Allalinhorn) 4027m

左からアラリンホルン
 リンフィッシュホルン (Rimpfischhorn) 4199m
 シュトラールホルン (Strahlhorn) 4190m



モンテ・ローザ (Monte Rosa) 4634m と
 リスカム (Liskamm) 4527m

マッターホルン (Matterhorn) 4478m



ダン・ブランシュ (Dent Blanche) 4357m と
 ツィナールロートホルン (Zinalrothorn) 4221m

ツィナールロートホルンと
 バイス・ホルン (Weisshorn) 4505m



マッターホルンとツェルマット、エーデルワイスの群落

8月9日（火）曇時々雨 停滞日

ゴルナーグラート (Gornergrat)～リッフェルアルプ (Riffelalp)

8月10日（水）曇後晴

p t 加藤

ツェルマット11:30 ゴルナーグラート12:20 リッフェルゼー13:30

リッフェルアルプ15:00 ツェルマット16:15

朝は曇なので様子を見ていたが、天気が回復しそうなのでハイキングに出かけた。ゴルナーグラート展望台には大勢の観光客で賑わっている。景色を楽しんだ後、リッフェルゼー湖へ向かう。逆さまッターホルンは見えなかったが、ホルンののどかな演奏を楽しむ。天気が段々良くなってきて景色を楽しみながらのんびり下った。



モンテ・ローザ (Monte Rosa) 4634m と
リスカム (Liskamm) 4527m



リッフェルゼー (Riffelsee) 湖

8月11日 (木) 曇後晴 停滞日

マッターホルン (Matterhorn) 4478m

8月12日～13日

p t 加藤、ヨハン、田村 (ヘルンリ小屋まで)

8月12日 (金) 晴

ツェルマット 12:00 シュバルツゼー (Schwarzsee) 12:20 ヘルンリ小屋 (Hörnli Hütte) 14:20

本日の行動はヘルンリ小屋までなのでのんびり出発する。午後6時過ぎマッターホルンガイドのヨハンと会う。



シュバルツゼー (Schwarzsee) 湖



ヘルンリ小屋

8月13日(土) 晴

ヘルンリ小屋 4:30 ソルベイ避難小屋(Solvay Hütte) 7:30 ヘルンリ小屋 10:30 ツェルマット 14:30 シャモニー 19:00

大勢の登山者に混じってヘッドランプを点け小屋を出発。取り付きは順番待ちになっており、ヨハンは順番待ちを避けて右へ回り込んだ地点から登り始める。最初はほぼ垂直の壁だ。大綱が張ってあり腕力で登る。ヨハンは先行者を巧みに避け追い越していく。出発点からヘッドランプの中止が悪く暗くなったり明るくなったりしている。コンテで登っているのヨハンを追いかけるが登るにつれ呼吸が激しくなりやはりきつい。が頑張って登る。登山者全体の真ん中位だろうか?途中で一本摂ってくれる。水と食糧を摂る。また登り始める。東の空から太陽が登ってくるのを感激して眺める。ヨハンが写真タイムを撮ってくれる。

やがてソルベイ避難小屋に到着する。ヨハンが「予定より30分遅れて到着し、あなたの疲れ具合がはげしいのでここで登山中止し引き返す」と言い出す。これからの往復5時間かかりこのままではデンジャラスになるという。不満な態度を示すがダメだという。残念ながらここで敗退だ。ヨハンを安心させるだけの体力がないように見えたのだ。やはり富士山を3時間位で登るくらい体力がないとスイス人ガイドには納得してもらえないようだ。仕方なく下り始める。まだ後続パーティがどんどん登ってくる。彼らは頂上まで行けたのかどうかはわからない。

ヘルンリ小屋まで戻り、ヨハンと残念の乾杯をして別れ一人足取り重く下った。



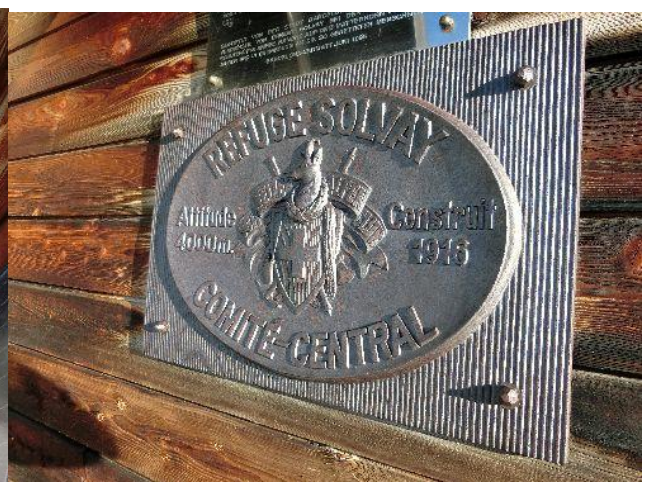
アルプスに朝日が昇る



余裕のガイドのヨハン



ソルベイ避難小屋からマッターホルン頂上を望む



ソルベイ避難小屋のシンボルマーク

この後、ツェルマットからシャモニーまで電車で移動した。

8月14日(日)晴 停滞日

モアヌ南壁(Aigulle du Moine)3412m

8月15日～16日

p t 加藤、フィリップ

8月15日(月)晴

シャモニー(Chamonix) 10:00 モンタンベール(Montenvers) 11:00 モアヌ南壁取り付き
13:30 クーベルクル小屋(Refuge du Couvercle) 15:30

シャモニーからモンタンベールへ登山電車で向かう。急こう配を大勢の観光客を乗せて走る。モンタンベール駅は大勢の観光客でいっぱいだ。モンタンベールからメールドグラス氷河(Mer du Glace)へと向かう。のっけから垂直な鉄梯子をいくつも下る。日本にはないところだ。メールドグラス氷河は表面にいく筋も川が流れている。フィリップは巧みに道をえらんで行く。途中氷河で何パーティかがアイスクライミングのトレーニングをしていた。

メールドグラス氷河からレショ氷河(Glacier de Leschaux)に入る。しばらく氷河を行くと白いペンキマークのある取り付き点に出る。氷河から垂直に近い鉄梯子を何段も登る。300m位登るとハイキングコースに出る。これからグランドジョラスなどの山々を見ながら登る。やがてクーベルクル小屋に到着する。本日はここまで。平らな岩に寝そべて、雲に覆われたグランドジョラスがいかにもいかめしく聳え立っているのをしばらく眺める。



モンタンベールからメールドグラス氷河を望む

アイスクライミングのトレーニング



レシヨ氷河へ入ったところの取り付け点



クーベルクル小屋が見える



100年以上前に作られたクーベルクル小屋



グランド・ジョラス(Grandes Jorras)が目の前

8月16日(火)晴

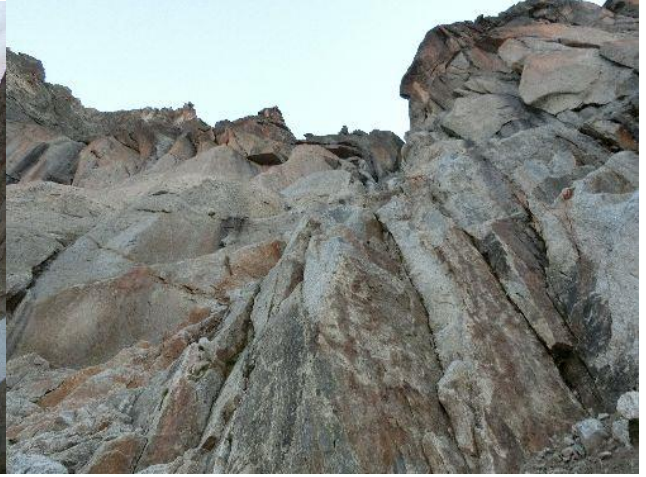
クーベルクル小屋5:40 南壁取り付け6:30 モアヌ頂上8:30 クーベルクル小屋11:30
モンタンベール駅16:10 シャモニー17:30

まだ暗い中、ヘッドランプを点けて出発する。雪渓基部でアイゼンを着けピッケルで急な雪渓を登り岩場の取り付け点に到着する。登攀準備をしてフィリップがトップで登り始まる。岩がしっかりしているので快適に登れる。我々の他は一パーティが別ルートに登っているだけだ。約3~400m登り、やがてモアヌ頂上に到着。素晴らしい眺めだ。写真を撮りまくる。

下りも慎重に下るがフリクションが良く効き下りやすい。テンション下り3回程行う。基部にてデポ品(アイゼン、ピッケル)を回収しクーベルクル小屋に向かう。クーベルクル小屋にて休憩し、往路とは別のハイキングコースで下る。例によって、急な鉄梯子を下りレシヨ氷河へ降りさらにメールドグラス氷河経由でモンタンベールへと向かった。



朝焼けのグランドジョラス



モアヌ取り付き点



モアヌ頂上のフィリップ



グランドジョラスを背景にVサイン



モアヌ南壁の全景



帰りのハイキングコース

ランデックス(L' Index) 2595m

8月17日(水)晴

p t 加藤、田村、フィリップ

シャモニー10:00 ランデックス基部10:40 ランデックス頂上12:30 シャモニー15:00

本日はランデックスの岩場へ向かう。ケーブルカーとスキーリフトを乗り継ぎランデックス岩場の基部に到着。基部にて登攀準備する。すでに何パーティか登っている。人気の岩場のようだ。フィリップがトップで登る。加藤と田村が一本のロープの末端3~4m間隔で結び、フィリップの後を追う。フィリップと田村はクライミングシューズに履き替えるが、加藤はアルパインシューズのままだが岩がしっかりしているのでそんなに悪くは感じない。計5ピッチ程でランデックス頂上に立つ。頂上は狭いが大賑わいだ。3パーティが違う方向から登ってきており頂上は入り乱れている。ここからロープダブル50mほどの懸垂下降だ。さらにガレ場を下りスキーリフト乗り場にたどり着いた。



ランデックスの全景



フィリップが登っています



ランデックス頂上

頂上から50mの懸垂下降

8月18日(木)曇時々雨 市内観光とガイアンの岩場見学

p t 加藤、田村



ガイアンの岩場。クライミングのトレーニングをしています

8月19日(金)晴 ハイキング

p t 加藤

シャモニー7:00 エギュドミディ(Aiguille du Midi)8:00 (パノラミックモンブラン)

エルブロンネ(Hellbronner)8:30 エギュドミディ10:20 シャモニー11:40 ルプレヴァン(Le Brevent)頂上12:30~14:00 シャモニー15:00

天気も良くシャモニー最後の日なので、ロープウェイ観光に出かける。まず午前中はエギュドミディからパノラミックモンブランロープウェイにてエルブロンネまで行く。空中散歩から素晴らしい景色を楽しむ。



モンブラン山群とロープウェイ



ドリユ(Aiguille Drus)、ベルト(Aiguille Verte)
手前の小ピークがモアーヌ(Aiguille du Moine)



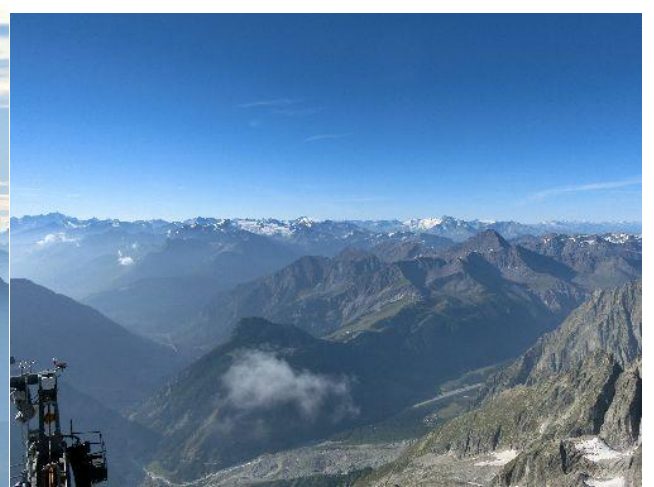
モンブラン (Mont Blanc) 4810m



ダン・デュ・ジュアン (Dent du Geant)



遠くに見えるマッターホルン



イタリア側の山々

午後は反対側のルプレヴァンヘロープウェイを使っていく。こちらにもモンブラン山群などが一望できる素晴らしい眺めだ。



(南)モンブランとシャモニー針峰群



(東) ベルト、アーゼンテール、シャドーネなど



(北東) エギュ・ド・ラ・グリエール方向



(北) トゥールサリエール方向

8月20日(土) 曇時々雨 移動日

p t 加藤、田村、フィリップ

シャモニー9:00 イタリア・アオスタ12:00 グリンデルワルト17:00

フィリップの車で、イタリア経由でグリンデルワルトに入った。

メンヒ (Mönch) 4107m

8月21日(日) (下部) 曇、(上部) 晴

p t 加藤、フィリップ

グリンデルワルト(Grindelwald) 8:00 クライネシャイデック(Kleine Scheidegg) 9:00 ユングフラウヨッホ(Jungfrauoch) 10:00 メンヒ基部10:50 メンヒ頂上13:00 メンヒ基部14:15 ユングフラウヨッホ15:00 グリンデルワルト17:00

曇空の中グルンド(Grund)駅からクライネシャイデックへ登山電車で向かい、電車を乗り換えユングフラウヨッホへ行く。ユングフラウヨッホは若干風があるものの晴れている。ここから雪上車で踏み固められた歩き易い雪道をメンヒへと向かう。メンヒ小屋が見えて来るところからメンヒ基部へと向かう。ここで登攀準備する。ストックをデポし、ロープを結んで登攀開始だ。しばらくアイゼン無しの岩稜登りだ。だんだん雪が多くなってきたところでアイゼンを着ける。あとは岩稜と雪壁が交互に出てくる。先行パーティは数パーティいる。やがて雪壁となりアイゼンとピッケルで慎重に行く。フィリップトップのコンテで登っていく。ようやく手前のピークにたどり着くがここから細い雪稜が続く。右側はすっぱりと切れている。一部は雪庇になっているようだ。下山するパーティとの道の交換が難しい。

慎重に進みやがて狭いメンヒ頂上に到着。フィリップと握手を交わし写真を撮りまくる。やはり素晴らしい眺めだ。やがて反対側からも一パーティ到着、我々と同じ方向から二パーティが到着し、狭い頂上がますます狭くなる。

ここから我々パーティが先頭で引き返す。10名程が連なっているようになった。お互い和気あいあいで下った。基部にてデポ品を回収し、ユングフラウヨッホ駅へと向かった。



グレント (Grund) 駅



クライネシャイデック (Kleine Scheidegg)



メンヒ頂上が見える



メンヒ基部、奥にメンヒ小屋が見える



メンヒ頂上にて、フィリップ



アイガーを背景に記念撮影



ユングフラウ方向



アイガー方向と登ってきたトレール跡



アレッチ氷河 (Aletschgletscher)



雲の隙間から見えるグリンデルワルト

こうしてヨーロッパアルプス最後の登山は終了し、グリンデルワルトで祝杯を挙げた。

8月22日(月)～23日(火) 移動日(帰国)

p t 加藤、田村

グリンデルワルト～チューリッヒ空港～バンコク空港～成田空港

フィリップの車でチューリッヒ空港まで送ってもらい、ヨーロッパでの予定をすべて終了した。

総括すると、今回のヨーロッパアルプス登山は目標を十分に果たせずに終了しほろ苦い山行であった。